

(様式) 令和元年度 小川中学校 学校評価報告書

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営				
1 タイムリーな情報発信・収集（学校・学年・保健だより等の発行やHPによる情報の公開、学校評議員等の評価、地域からの情報の収集） ・学校ホームページを定期的に更新し情報の発信と啓発を図る。 ・外部アンケートを実施し、学校教育活動の改善に努める。 ・PTA役員・学校評議員等と定期的に情報交換の機会を設ける。	A	・学校だより、HP、学年だより等定期的に発行し、学校の様子を保護者に伝えることができた。 ・学校教育診断アンケートを年間2回実施し保護者の考え方を把握することができた。	・今後も継続的に学校の情報を積極的に発信していく。 ・保護者、生徒アンケートを分析し次年度の教育計画に取り入れていく。	・地域では生徒の元気な挨拶が聞こえてうれしい。 ・HPで生徒の活動の様子がタイムリーにわかる。
2 地域資源を活用した教科、総合的な学習の時間の充実 ・地域の特色・人材を生かした総合的な学習の推進 ・ワークシートや進め方、連絡先などの整理と指導資料の累積に努める。	B	・なす風土記の丘と連携した地域学習を推進した。 ・音楽の授業で地域のボランティア講師によるまほろば太鼓の学習を実施した。	・1学年の総合は体験学習、地域学習のスタートとして、たたら製鐵を復活させることも検討する。 ・体験活動を重視した「探究学習」にするように計画を再検討する。	・体験を通した学習は必要なので、たたら製鐵は是非実施してほしい。
II 確かな学力の向上を図る学習指導				
1 基礎的基本的な知識・技能の確実な定着をはかる授業の工夫改善 ・ねらいを明確にした分かりやすい授業を実践する。 ・定期テストや単元テストの解き直し振り返り学習を実践する。 ・提出物の徹底、忘れ物をなくすために学習計画帳を活用する。	B	・ねらいを明確にした分かりやすい授業実践を継続して実施することができた。 ・定期テストや単元テストの解き直し振り返り学習を実践する。 ・提出物の徹底、忘れ物をなくすために学習計画帳を活用する。	・授業中、小テスト、復習などを繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。	・学力向上については先生方の努力に感謝する。
2 思考力、判断力、表現力の育成 ・とちぎっ子・全国学力学習状況の分析・考察を踏まえた指導法の工夫改善を図る。 ・パワーアップ、フォローアップシートを授業で活用する。 ・個人で思考判断する活動や言語活動を通した集団での学び合い活動を充実させる	A	・本校のとちぎっ子・全国学力学習状況の分析・考察を各教科で行い、改善策が作成された。 ・パワーアップ、フォローアップシートを授業で活用が十分ではなかった。 ・グループ学習など学習形態を工夫した授業が各教科で行われ、学び合い活動が充実してきた。	・各教科でパワーアップ、フォローアップシートを用いた学習時間の確保を図る。 ・家庭学習として週末課題を出す。（全学年共通で） ・各種調査実力テストの問題が新しい学力観を具現化していることから、テスト結果を分析し学校全体で取り組みを進める。 ・考えたこと文章で書く力が弱いのでフロンティアタイムの充実を図る。	
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導				
1 自己指導能力の育成(自己存在感、共感的人間関係、可能性の開発)	A	・生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ・生徒会の主体的な活動が定着している。	・Q-U検査を十分に分析したうえで、学級づくりを実践する。	

・生徒のよさを認め、尊重し、自尊感情を高める指導の充実を図る。 ・「学習計画表」を生かした生徒の内面理解と同時に生徒との交流を図る。 ・Ｑ－Ｕ検査を活用した学級づくりを実践する。				
2 学業指導の充実 ・互いに高め合える学級づくりを推進する。 ・コミュニケーションを高める授業を実践する。 ・生徒のよさを認め、伸ばす授業を実践する。	B	・互いに高め合える学級づくりの推進ができてきている。 ・各教科でコミュニケーションを高める授業実践ができてきている。	・各教科で話し合い活動を意識した授業改善に取り組む。 ・コミュニケーションを高めるために、コミュニケーションタイムの工夫改善を図る。	・生徒たちが落ち着いて学習に望んでいる姿が印象的であった。
IV 健康・安全、体力の向上				
1 学校教育活動全体で生命尊重教育を推進 ・生命尊重教育は、道徳・特活を中心に学校全体で推進する。 ・保育体験を生かした生命尊重の意識化を図る。	A	・場面に応じた生命尊重を意識する活動ができていた。 ・3年生家庭科で保育体験を生かした生命尊重教育が実践できた。	・道徳教育推進教師を中心として別薬を作成し、別薬を意識した授業を展開する。	・生徒の自転車の乗り方はよいのではないかな。
2 生命尊重を基盤とした安全、防災教育の推進 ・避難訓練(不審者・火災・地震)の実施を通して、自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成を図る。	A	・避難訓練(火災・地震)の実施を通して、自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成を図ることができた。	・交通安全教室（1年）、救命入門研修（2年）、思春期講座（3年）の継続実施する ・不審者対応については職員研修等で実施する。	・安全安心な学校環境作りに努めてほしい。
V 家庭・地域との連携				
1 家庭学習の習慣化 ・家庭学習の方法について教科担当で具体的に指導する。 ・自主学習ノートを活用し家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・週中、週末課題を推進する。 ・保護者会等の機会を利用して、家庭学習についての保護者への啓発を図る。	B	・年度当初に家庭学習の方法について教科担当で具体的に指導することができた。 ・自主学習ノートを活用し、年間を通して家庭学習の推進を行うことができた。 ・学年に応じた週中、週末課題を実施し、学力向上につなげた。 ・学年PTA等で、保護者に対して家庭学習について啓発を図った。	・年度当初に家庭学習に関する学級活動を学習指導係で立案、実施し意識を高める。 ・保護者アンケートでも家庭学習の評価が低いので保護者への啓発を図る。	・家庭学習については継続して保護者に啓発してほしい。
2 ボランティア活動、福祉体験活動の充実 ・福祉委員会を中心として積極的に地域の行事に参加する。 ・地域連携教員を中心として、小中連携、地域ボランティア活動への積極的な参加を実践する。	A	・生徒会役員、福祉委員会を中心として、敬老会、福祉祭へボランティアとして参加し協力することができた。	・次年度も計画的に地域のボランティア活動に参加する。 ・ボランティアカード等町教育委員会で作成してもらえると生徒意識が高まる。	・今後も積極的に地域活動に参加してほしい。

- ・評価項目の評価欄は、各学校で設定した目標等の評価を総合的に評価して記入してください。
- ・各学校の目標については、できるだけ分かりやすく記述してください。